

## 第3学年道徳指導案

平成29年5月16日（火）第5校時

3年4組 生徒数40名

指導者 渡部 健太郎

1. 主題名 夢を追い求める心 [内容項目 A- (3)]

2. ねらい

目的や目標を持ち、理想を求めて、力強く積極的に自己の人生を切り拓こうとする道徳的実践意欲を培う。

3. 資料名 「脚本家が出来上がるまで。」

【出典 あかつき 中学生の道徳3 自分をのばす】

4. 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目 A- (3) は「自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。」という項目である。

自己を見つめ、充実した生き方を追求するとは、理想を持ってその実現に向かって明るく生きることである。夢が叶わないかもしれないという絶望は誰にでもあるが、あきらめず、またふんばって、新たな理想を掲げ、生きていくことが大切であることを理解させたい。

(2) 生徒の実態について

中学3年生になり、卒業後の自分の進むべき道を決めなければならない時期にきている。また、まもなく始まる勤労体験を通して、自分の将来について考える機会が多くなってきた。理想と現実の狭間で揺れ動くのだが、前向きに人生を切り拓いていけるようにしなければならない。

本学級は、明るく元気よく活動できる学級であり、関わり合いながら学習に取り組んだり話し合いに参加したりすることができる。日頃の作文を見てみると、おおむね自分の意見をしっかり持って活動していることが分かる。しかし、将来の自分の姿がイメージできずに悩んでいる生徒は多い。したいことや叶えたいことはそれぞれに持っているが、頑張っても結果がすぐに出ないため、自分自身の能力の上限をはじめから決めてしまったり諦めてしまったりしがちである。また、夢に向かって頑張っている人が周りに居て、その人に憧れを抱く機会が少ないことも夢を持つことに対して謙虚になる1つの原因である。

(3) 資料について

本資料は、脚本家吉田紀子さんの書き下ろしである。筆者は高校生の頃から脚本家になることを夢見ていた。順風満帆のように見える人気脚本家も、ここに至るまでには壮絶な人生ドラマがあり、幾多の苦難や障害も、脚本家になりたいという一念で乗りこえてきた。何かをやりたいというエネルギーが、筆者を支え、人生を豊かにしてきた。人気テレビドラマの脚本を手がける吉田さんの生き方に励まされ、理想を持って自分の生きていく道を切り拓いていこうとする意欲を引き出すことのできる資料である。

5. 学習指導過程 ○発問 ◎中心発問 ・予想される生徒の反応 ※評価の視点

評価の視点	自分自身の理想や夢を探し出そうとする意欲のある発言や記述がある。自分の進路について、理想の実現に向かって努力しようとする姿勢が見られる。
準備物	読み物資料, ワークシート, 掲示物

学習の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	▼脚本家という職業を知る	○好きなテレビドラマは何か。 「Dr.コトー診療所」というドラマの脚本を書いた人の話を元に考える。	●教師の好きなテレビドラマを提示するが、脱線しないように切り上げる。
展開	▼今日の資料の範読を聞く ▼将来に理想を抱くことの楽しさを知る	○根拠もないのに脚本家になりたいと思う「夢見る夢子」をどう思うか。 ・うらやましい ・夢を持つことは良いことだ ・なりたいと思ってなれるものではない	●自信や根拠がなくても夢を持つことを肯定的にとらえさせたい。
開	▼理想と現実の狭間にいる筆者の気持ちを考える	○「脚本家になりたい病」が悪化したのはなぜか。 ・父の言いなりになってしまったから ・やりたいことと違う職業についてから ・夢をあきらめてしまったから	●自分ならどう思うのかを考えられるように助言する。

